

三木清著「読書と人生」新潮文庫、新潮社 1974年10月30日刊を読む

## 人生と読書

1. (1) ① 善い本を繰り返して読むということは平凡な、しかし思い出す毎に身につまされる読書の倫理だ。
    - ② 先達でもフロベールの手紙を読んでいたら、次のような文句があったので、私はまたアンダーラインした。
    - ③ 「作家の文庫は、彼が毎日繰り返して読まねばならぬ源泉であるところの5冊か6冊までの本から成っているべきである。その余の本について云えば、それを知っているのはよいことだ。しかしそれきりのことである」。
  - (2) ① 繰り返して読む愛読書をもたぬ者は、その人もその思想も性格がないものである。
    - ② ひとつの民族についても同様であって、民族が繰り返して読む本をもっているということは必要だ。
    - ③ それが古典といわれるものである。
  - (3) ① かくの如き古典の復刻ということは出版業者にとってもひとつの重要な意味のある仕事でなければならぬ。
    - ② しかしながらまたそのようなことは我々が多くの本を集めるということと矛盾しない。
    - ③ 公共の図書館にしても個人の文庫にしても本が多ければ多いほどよいのはもちろんだ。
  - (4) ① 本は道具と同じように使うべきものであるからである。
    - ② そして使うということはそれを悉く始めから終わりまで読むことと同じでない。
    - ③ 或る本については、単にそれがあるということ、ただその表題だけを知っているということも十分有益である。
  - (5) ① 尤も度々繰り返して読む愛読書をもたない人はその余の本を如何に使うべきかを学ぶこともできないであろう。
    - ② 本を書く者にしても、真面目な著者であれば、彼の本が少くとも二度は必ず読まれることを希望しているであろう。
    - ③ アンドレ・ジードも「私は再審においてのほか勝つことを願わない」という風なことを何処かで云っていたようだ。
2. (1) ① どんな本を買って読むべきであろうか。既に数年を経て価値の定まった本をのみ読むようにエマーソンなどが教えている。
    - ② しかしながら我々の読書欲はもっと新しいものを求め、
    - ③ また新知識を絶えず吸収するということは我々にとって必要である。
  - (2) ① 私はそこで時々古本屋へ行って勉強するように勧めたい。
    - ② 本の夜店を見て歩くことなどもよい。

- ③箱入の新刊書のとときにはどれもこれも同じように見えたものがここでは既にその間に区別ができています。
- (3)①絶版になって原価よりも高くなっているものもある。
- ②古本屋の陳列棚を見ておれば、どのような本が善い本であるかが誰にも自然に分るようになる。
- ③書物の良否についての鑑識眼は銘々の見地からその間におのずから養われる。
- (4)①古本屋を時々覗く<sup>のぞ</sup>ということは読者にとってのひとつの修養である。
- ②それは出版業者にとっても多く参考になることではなかろうかと思う。
- ③著者にとっては尚更<sup>なおさら</sup>のことだ。
- (5)①書物の倫理は古本屋において集中的に現れている。
- ②あらゆる本は古本屋において性格化している。
- ③これはもちろん値段の点からのみ云われることではない。
- (6)①ところで書物に対する著者の倫理とは如何なるものであろうか。
- ②フロベールがまた書いている。
- ③「多く読み、多く想わねばならぬ、つねにスタイルのことを考えそして出来るだけ少く書くようにせねばならぬ、ひとつの形式をとることを求め、そして我々がその厳密正確な形式を見出すに至るまでは我々のうちで他の意味に変わるイデーの激動を鎮めるためにのみ書くようにせねばならぬ」。
- (7)①多く読み、多く考え、そして出来るだけ少く書くこと、それが著者の倫理である筈である。
- ②しかし読むというにも沢山の違った仕方があるのであって、そして良く読むというには多くのエスプリが必要なのである。

#### <コメント>

昭和を代表する思想家、三木清の名作「読書と人生」。真摯な文章で本格的読書とは何かをわかりやすく語りかける名著。是非、皆様で御一読ください。

2022年1月15日 林明夫記